

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名： 中性子医療研究センター		部局長名： 成瀬 恵治
目 標		目標に対する達成状況（成果）及び新たに生じた課題等
①教育領域		
		教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
・保健学研究科と連携し、中性子医療コース(大学院コース)の体制整備および教育を担う。 ・学内外の共同研究先と連携し、修士課程・博士課程の大学院生、留学生、研究員に対して積極的な教育を行い、BNCTの研究者を輩出していく(5名以上を対象に教育を行う)。	関連する 中期計画の番号	
	5-1 8-1	保健学研究科と連携し、大学院保健学研究科博士前期課程における「中性子医療コース」を担当教員と共同で開講((中性子医療学特論(計8回)および中性子医療学演習から構成)、本年度の受講者はなかったが、継続的な教育実施に向けた教育基盤の整備を着実に進めることができた。また、学内外の共同研究先と連携し、学内博士課程大学院生7名(消化器外科・口腔外科・泌尿器科、うち中国からの留学生3名)、コロンビアからの研究生1名、イタリアからの特別研究学生1名に対して、中性子医療研究センタースタッフによるBNCTを中心とした直接指導を実施した。教育対象者は計9名であり、当初目標である5名以上を達成した。さらに、外部評価資料では、 <u>センター全体として留学生・学生・外国人客員研究員の受入総数19名、うち博士課程大学院生8名、修士課程大学院生6名、外国人客員研究員3名、大学院進学予定者2名とされており、本センターが国内外の若手研究者・学生に対する教育・人材育成拠点として機能していることが示されている。加えて、指導対象者のうち1名が博士(医学)を取得しており、外部評価資料においても、直接指導学生の学位取得実績として医学博士2名、医学修士1名が示され、本センターの教育活動が具体的な成果として結実していることが確認できた。</u> 以上より、2025年度は、中性子医療コースの整備による教育体制の構築と、大学院生・留学生・特別研究生に対する直接指導の両面において、BNCT研究者育成を着実に推進し、教育領域の当初目標を概ね達成したと評価する。一方で、中性子医療コースの受講者確保は今後の課題であり、学内周知強化や関連分野との連携拡充を進める必要がある。
②研究領域		
		研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
・国外研究者とのBNCT関連の国際共同研究へ向けた取り組み強化する。 ・学内のBNCT共同研究先を構築し、研究協力体制や新規BNCTプロジェクトのを立ち上げ、岡山大学内でのBNCT認知度を高め、競争的資金獲得(科研費申請率100%、採択率80%、寄付金受け入れ金額及び共同・受託研究費合計1000万円以上)、論文アクセプト(Q1ジャーナル20%以上)を目指す。 ・BNCT関連の基礎研究から橋渡し研究に至るまで全分野での研究を進め、産学共創活動の推進(1件以上)、共同研究基盤(センター外研究者と2件以上の申請)の拡大を行う。	8-1	2025年度は、国外研究者とのBNCT関連国際共同研究に向けた取組を進めるとともに、学内におけるBNCT共同研究先の構築、新規プロジェクトの立ち上げ、共同研究基盤の拡大を推進した。
	8-2	<u>競争的資金の獲得においては、スタッフ全員が科研費を申請し、申請率100%、採択率100%を達成した。採択件数は計6件であり、内訳は国際共同研究強化A 1件、基盤研究C 5件であった。これは、目標として掲げた採択率80%を上回る成果である。</u>
	10-1	また、受託研究2件、AMED橋渡し研究2件を獲得し、BNCTの基礎研究から橋渡し研究に至る研究推進体制を強化した。 <u>受入実績は、共同研究受入額65,000円、受託研究受入額3,900,000円、寄付金受入額250,000円であり、合計4,215,000円であった。論文業績については、Q1ジャーナル掲載数は前年度6件、本年度6件と高水準を維持した。さらに、中性子医療研究センター所属の論文は計12報であり、そのうち6報がQ1ジャーナル掲載論文であったことから、Q1比率50%を達成した。</u> 以上より、2025年度は、 <u>科研費6件採択、外部資金4件獲得、受入総額4,215,000円、Q1論文6件という具体的成果</u> を挙げ、全スタッフが高い水準で研究活動を遂行したと評価する。
③社会貢献(診療を含む)領域		
		社会貢献(診療を含む)領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
・シンポジウムを開催し、新企画でのBNCT研究力の発信を強化する ・IAEA協働センター事業の継続発展、BNCT教育プログラムを推進する。 ・岡山県里庄町仁科会館と協働で、仁科博士の業績多言語対応の地域貢献事業を推進する。 ・BNCTガイドラインの策定に貢献し、IAEAに対して国際基準の策定に貢献する。 ・上海大学との国際交流事業へ積極的に尽力する。	8-2	2025年度は、BNCTに関する研究成果・活動実績を国内外へ発信し、国際連携、地域連携、標準化活動を通じて社会貢献を推進した。特に、 <u>2025年11月18日(火)～19日(水)に岡山大学鹿田キャンパスJ-Hallで、IAEAトレーニングワークショップ“Training workshop on advances in boron neutron capture therapy”を開催した。</u> 本ワークショップは、IAEA協働センターである岡山大学が主催し、BNCT分野の国際的な知識共有と人材育成を目的として実施された。学長の挨拶および 国際原子力機関(IAEA)物理学部門長によるメッセージのもと、関連分野の研究者による講演と、参加者21名によるBNCT国際標準化に向けた議論が行われ、岡山大学の国際的なBNCT研究・教育拠点としての役割を示した地域貢献の面では、 <u>岡山県里庄町仁科会館と協働し、仁科芳雄博士の業績を多言語で発信する地域貢献事業を推進した。</u> これにより、地域に根ざした学術・文化資源を国内外へ発信するとともに、地域社会と大学との連携強化に寄与した。加えて、上海大学との国際交流事業にも積極的に尽力し、学術交流、人材交流、情報交換を通じて国際連携の強化を図った。これにより、BNCTを中心とする先端研究分野における海外との協力関係を深め、本センターの国際的発信力向上に寄与した。
	7-1	
	8-1	
	7-1	
	7-1	
④管理運営領域		
		管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
・おかやまメディカルイノベーションセンター(OMIC)や光・放射線情報解析部門と連携し、学内施設を活用して共同利用を推進する。」 ・積極的に競争的研究費の獲得を目指し、人的・資金面での継続的な発展につなげる。	12-2	2025年度は、学内関連部門との連携強化と競争的研究費の獲得を通じて、センターの管理運営基盤の充実に取り組んだ。
	8-2	<u>OMICおよび光・放射線情報解析部門と連携し、学内施設・設備の有効活用を図ることで、共同利用を推進し、研究支援体制の強化と部局横断的な連携体制の充実に努めた。</u> また、 <u>競争的研究費については、スタッフ全員が科研費を申請し、申請率100%、採択率100%、計6件採択を達成した。加えて、AMED橋渡し研究2件、受託研究2件を獲得し、人的・資金面での継続的な発展につながる運営基盤を強化した。</u> 以上より、2025年度は、共同利用の推進と外部資金獲得の両面において、管理運営領域の組織目標を着実に達成したと評価する。
⑤センター・機構等業務		
		センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
・運営委員会を適宜開催してセンターの運営方針を決定し、外部評価委員会の意見を組織運営に反映させていく。	8-1	2025年度は、 <u>運営委員会を開催し、センターの運営方針や事業推進方策について検討・決定するとともに、外部評価委員会(2025年8月28日開催委員5名)における議論を組織運営に反映した。外部評価委員会では、2023～2025年の実績として、外部資金獲得(科研費77,670,000円、受託研究146,537,000円、共同研究2,450,000円、補助金8,800,000円、寄附金11,600,000円)、論文43報、留学生・学生・外国人客員研究員19名受入、仁科会館との地域連携、上海大学との国際交流、IAEA Collaborating Centre for BNCTとしての活動等が共有され、センターの研究・教育・社会貢献機能を一体的に強化する方向性を再確認した。</u> これらを踏まえ、外部評価結果を今後の組織運営、国際展開、人材育成、地域連携の充実に活用した。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。
注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。